

ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護③『消化器』は、看護基礎教育において消化器系疾患の理解と看護実践の基盤を提供することを目的として刊行され、多くの教育現場で活用されてきました。このたび第2版を刊行できることとなり、編者を代表してここにご挨拶申し上げます。

今回の改訂では、近年の医療と看護を取り巻く変化に応えるため、以下の点を重視しました。第一に、最新の関連ガイドラインを反映し、科学的根拠に基づいた内容としました。第二に、看護師国家試験出題基準の最新版に準拠し、国家試験の出題傾向を踏まえた学修が可能となるようにしました。第三に、看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）で示された内容を反映し、看護基礎教育課程における学修目標達成に資するよう配慮しました。さらに、イラストや写真を追加することで、複雑な病態や看護の理解を助ける工夫を加えました。

さらに今回、看護学と医学の編者合同で行われた編集会議では、単に記述の確認にとどまらず、学生にどのような教科書を届けたいかを率直に意見交換する場となりました。医師からは「病理学的に成功しても心理面で困難を抱える患者の存在に目を向け、臨床のあらゆる局面で役立つ教科書であるべき」との意見があり、編者が皆同じ考えであることを確認しました。こうした対話を通じて、看護学と医学の視点を融合させ、現場の声を反映することができたことは、本改訂版の強みであると考えています。

本書の中心にあるのは、あくまで学びの主体である学生の皆さんの成長です。皆さんには、検査や治療に伴う身体的苦痛や心理社会的影響を体験する患者に関心を寄せて理解を深め、根拠ある看護を考える力を育むことを願っています。また、学生が自ら考え、理解を深め、臨床における看護実践へとつなげていくために、教育者・臨床家が本書をどのように活用するかが重要であると考えます。本書が、教育の場と臨床の場をつなぐ媒体として機能し、学生一人ひとりの学修を支援する一助となることを願っています。

最後に、本書の改訂にあたりご尽力いただいた執筆者の先生方、ならびにご助言をいただいた臨床現場の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

編者を代表して 佐藤正美

医学の編者からの応援メッセージ

近年、国内では天災や気候変動の影響が相次ぎ、同じ形態の地域医療の持続が難しくなっているケースもあります。海外に視点を移すと、日本は戦後 80 年を迎えましたが、世界各地では依然として国際紛争や戦争が続き、力による平和維持が模索される状況にあります。そのような中で、私たちは何が正しいのか、どのように人間としての判断を行うべきか、不安を抱かざるを得ません。

一方で、生成 AI をはじめとする新しい技術が日常生活や医療現場に急速に導入されてきました。AI は人間の能力を超えて業務を大幅に軽減し、医療者の負担を減らす可能性を秘めています。しかし同時に、医療者の役割そのものが AI に取って代わられるのではないかという不安も増しています。こうした時代にあってこそ、私たちは「人として病む人に何ができるのか」「医療者としてどのような能力を高めていくべきか」を問い続ける必要があります。

消化器医療の分野では、治療の進歩と専門化が進む一方で、患者さんを全体としてとらえる視点が薄れがちです。医師、看護師、その他の医療者が、それぞれの立場で患者さんの想いと課題を共有し、協働して解決していくことがますます重要になっています。本書は、そのような状況に応えるために、看護学教育モデル・コア・カリキュラムおよび看護師国家試験出題基準に準拠しつつ、実臨床に即した「plus α 」の知識を加えた構成としました。また、実際の患者ケアに直結する「臨床とのつながり」の問題を設け、学習者同士の意見交換を促す工夫も盛り込んでいます。

不安定な時代だからこそ、医療者が患者さんと正面から向き合い、その場で行える一つひとつの営みに価値を見いだすことが、むしろ医療者としてのやりがいにつながるのではないのでしょうか。本書が、多職種が視点を共有しながら専門性を発揮し、病む人と共に歩む医療の実践に資することを願っています。

最後に、多忙な日常にもかかわらず執筆を快諾してくださった先生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

三原 弘